

建設計画（案）

1. 整備方針

本施設は幅広い年代が利用する施設であるため、誰もが利用しやすく、幅広い利活用に対応できるような機能連携に意識した配置とします。図書館機能、児童館機能、公園機能等がゆるやかにつながり、にぎわいや交流が生まれるような配置とします。

■ 「安全・安心」を徹底した施設づくり

「誰もが安心して利用できる施設を目指します」

- ・見通しがよく人の目が行き届く、安全性・防犯性の高い施設とします。
- ・バリアフリーやユニバーサルデザインに配慮した施設とします。
- ・地域の人々の支えになる、防災性能を備えた施設とします。

■ 「快適性」を重視した施設づくり

「誰もが使いやすく、分かりやすい施設を目指します」

- ・乳幼児の特性に応じ、快適に過ごせる施設とします。
- ・利用者や児童にとって、使いやすさ・分かりやすさに配慮した施設とします。
- ・将来的なニーズにも柔軟に対応できるフレキシブルな施設とします。

■ 地球環境にやさしい施設づくり

「環境負荷の少ない施設を目指します」

- ・国産木材や自然エネルギーの利用促進ならびに省エネルギー化をはかり、地球温暖化対策等の推進に寄与する、環境負荷低減に配慮した施設とします。
- ・自然と調和・共生した、緑豊かな環境を整備します。
- ・周辺の景観と調和しつつ、緑豊かなまちなみを育てていく施設とします。

■ 南口地域に永く親しまれる施設づくり

「住民に身近な愛着の持てる施設を目指します」

- ・地域の利用者同士が交流を深められる空間を整備し、地域の連帯感を高める施設とします。
- ・利用者の自発的な活動を支え、地域の魅力を発信できる施設とします。
- ・温かみのある外観や空間に配慮し、親しみを持てる施設とします。

■ 建設と維持管理コストの低減化に配慮した施設づくり

「コストバランスのとれた施設を目指します」

- ・導入する機能や規模を適正に設定し、機能的かつ効率的な施設とします。
- ・維持管理、保全に配慮した管理しやすい施設とします。
- ・最新技術を導入し、省エネルギー化に配慮した施設とします。

2. 施設計画の考え方

本施設を検討するにあたり、各施設の構成や動線の考え方等を整理し、それらに基づき、施設検討を行います。

○複合化による相互連携を可能とする計画

- ・各機能が多面的な要求に対応できるような配置計画とします。
- ・多世代交流を可能とする計画とし、共用部分を介して各機能との連携が可能となる計画とします。
- ・利用者、管理者それぞれに対して明確な動線計画とします。
- ・多様な利用形態に対応できる柔軟性を持った計画とします。

○機能更新に対して柔軟性を持った諸室構成

- ・将来的な機能更新に対して柔軟に対応できるよう特殊な室形状とはしないこととします。(用途の入れ替えが可能)
- ・共用部分と諸室それぞれの役割を明確にし、機能と意匠のバランスを考慮した計画とします。
- ・将来的なレイアウトの変更に対応できる建築計画とします。

○周辺環境との調和に配慮した意匠性

- ・電車からの視認性や周辺からの視認性に配慮します。
- ・南や東の隣接地には、2 階建て程度の建物が多いため、建物高さを抑え、街並み形成に配慮した建築計画とします。
- ・図書館通り側は、壁面調和による街並みの演出に配慮します。
- ・駐車場は、道路側の景観を損なわないような配置計画とします。
- ・派手な色彩や奇抜な形状は避け、周辺環境や公園と調和するものとします。
- ・自然環境を可能な限り保全します。

3. ユニバーサルデザイン、バリアフリーに係る基本方針

本施設は、子どもから高齢者まで多様な人々が利用する施設となることから、誰もが利用しやすい施設づくりが重要となり、今後の設計段階において次の点に留意します。

○誰もが利用しやすい環境の整備

- ・年齢や性別、障害の有無に関わらず円滑に移動できるよう、通路は十分な幅を確保するとともに段差や勾配を少なくし、スロープ・手すり・エレベーター等を設けます。
- ・トイレは明るく・清潔・安全に利用できるよう配慮し、車いす利用者、オストメイト（人口肛門等保有者）に対応した多目的トイレを設けます。
- ・乳幼児を連れた方が安心して利用できるよう、授乳室やおむつ替えスペース等の整備を検討します。
- ・車いす利用者や障がい者、妊娠中の方やベビーカーを利用する方等の駐車場は、建物の出入口から近い場所にスペースを確保するなどの検討をします。
- ・中央公園周辺の歩道を再整備し、車いす利用者や障がい者、妊娠中の方やベビーカーを利用する方等が安全に移動できるように配慮します。

○わかりやすい案内表示

- ・諸室の配置等がわかるよう開放的で視認性のよい空間づくりに配慮するとともに、出入口付近のわかりやすい位置に多言語及び点字を併記した総合案内表示を設置するほか、色彩やピクトグラム（絵文字）の導入を検討するなど、初めての来館者にもわかりやすく、見やすいサイン整備を行います。
- ・出入りが自由で不特定多数が利用する 1 階のエントランスホールは、見通しのよい配置やわかりやすい受付を配置し安全性を確保します。

4. エネルギー・環境負荷低減に係る検討

- ・循環型社会の実現に向けて、「低炭素化に配慮した地球環境への取り組み」、「周辺の地域環境に配慮した取り組み」、「人に配慮した取り組み」といった、多面的に環境を捉えた施設づくりを行います。
- ・自然環境が有する多様な機能（生物の生息の場の提供、良好な景観形成、気温上昇の抑制等）を活用し、持続可能な魅力ある国土づくりや地域づくりを進めるというグリーンインフラの視点から、壁面緑化の採用を検討します。

○自然エネルギーの活用

- ・自然エネルギーを積極的に利用し、環境に優しく省エネルギーを実現する施設づくりを行います。
- ・子ども達が日常から、防災について、あるいは自然再生エネルギーについて学ぶことができるように、雨水タンク、太陽光パネルなどの設置を検討します。

○各種省エネルギー手法の導入

- ・長寿命機器や高効率機器の採用等ランニングコスト低減に配慮した計画とします。
- ・屋根、外壁や窓は、気密性・断熱性が高い材料やサッシ、複層ガラスなどを採用し、空調機器の効率を高めるような検討を行います。

○都市環境への配慮

- ・公園周辺の緑や景観に配慮し、みどりに溶け込む環境型建築を目指します。
- ・既存樹木(アカマツ等)を可能な限り保全する計画とします。なお、複合施設の建設にあたり、支障等となる場合は、公園内での移植を検討します。
- ・環境に配慮した材料やリサイクルが容易な材料、環境負荷の少ない材料（エコマテリアル）等の採用を検討します。

5. ライフサイクルコスト低減に係る検討

長寿命化と維持管理に配慮する計画とします。

○建設コスト縮減方策

- ・必要諸室を効率的かつコンパクトに配置します。
- ・華美な装飾などは極力設けず、機能性や効率性を重視した建物形態とし、建設費用等の初期投資を極力抑えるよう努めます。

○維持管理コスト縮減方策

- ・汎用性やメンテナンス性の高い材料・設備機器の選定を行い、維持管理のしやすい建物とします。
- ・将来的な用途変更にも容易に対応できるよう、間仕切り壁の仕様や設備配置等に配慮し改修の行いやすい計画とします。

6. その他配慮事項

(1) 災害時の公園及び施設利用等について

中央公園は指定緊急避難場所(火災などの災害の被害が拡大して生命に危険が及ぶような場合に、避難する場所)に指定されているため、再整備後においても同等の機能を確保するとともに、複合施設は、防災性能を備えた施設とします。

また、ゲリラ豪雨対策として雨水貯留浸透施設を整備します。

(2) 新型コロナウイルス等感染症対策等を考慮した施設計画

新型コロナウイルス等感染症対策等を考慮した施設計画事例を参考に今後対策を検討して参ります。

新型コロナウイルス対策等を考慮した施設計画事例

	事例
室内空間の換気能力向上	機械設備による対応 ・換気設備の能力を高め、換気回数を基準値以上確保 自然通風を活用した対応 ・建具を開放することで、風通しの良い室内空間を整備
ウイルス侵入を防ぐ空調計画	空調設備計画より、室内の清浄度を設定し、部屋ごとの気圧を調整することで必要諸室の空気清浄度を確保
屋外空間の活用	風通しの良い屋外空間を活用することで感染リスクの少ない空間を確保